

第528回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和4年4月6日(水)
2. 開催場所 リポート事前提出による書面開催
3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 8名全員リポート提出
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)
 - 委員長 林 新一郎
 - 副委員長 井口 弥寿彦
 - 委員 加藤 恵美子
 - 委員 笹本 正治
 - 委員 佐藤 裕一
 - 委員 瀧川 浩
 - 委員 武重 正史
 - 委員 南澤 光弥○放送事業者側出席者名
 - 外山 衆司 (代表取締役社長)
 - 船木 正也 (常務取締役 編成業務・放送番組審議会担当)
 - 太田 耕司 (常務取締役 報道制作・企画事業担当)
 - 西條 彰浩 (報道制作局長)
 - 早川 英治 (編成業務局長)
 - 浅輪 清 (編成業務局次長 兼 考査部長
兼 放送番組審議会事務局長)
 - 北澤 輝久 (編成業務局編成部長 兼 視聴者室長)
 - 宮本 利之 (報道制作局制作部長)
 - 松山 航大 (報道制作局制作部アナウンサー)

4. 議題

(1) 番組審議

『ぶらりQ旅 ～祝！善光寺御開帳 長野めぐり～』

令和4年2月26日(土) 午後4時00分～4時55分放送

- (2) 視聴者対応報告（令和4年3月分）
- (3) 番組種別報告（令和3年10月～令和4年3月まで）
- (4) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・『ぶらりQ旅』のテーマのごとく、クイズも交えて気楽にみられる番組となっていた。
- ・御開帳までほぼ1か月という好機を見計らった放送。しかも、コロナ禍6波がかなり落ち着きを見せ、今年こそは必ずや御開帳が開催されるだろう、という期待が高まった絶好のタイミングの番組だった。
- ・御開帳前のこのタイミングを捉えて、善光寺（御開帳）から松代にかけて歴史・地理を採り上げ、加えて信州産品を食材とするレストランの紹介もあり、観光者を迎え、また我々地元在住者にとっても理解を深める意味で総合的によく練った構成であった。
- ・7年ぶりの開催となる善光寺御開帳と、多くの参拝客らを迎えることになる地元、長野市の観光的な魅力について、県民ばかりでなく全国の人たちにも理解してもらえるように考慮したのか、大変分かりやすく、かつ楽しい構成で、テンポも心地良く視聴できる番組に仕上がっていると感じた。
- ・松山アナは明るく余裕を感じさせる仕切りで、番組全体をコントロールしていた。
- ・おかずクラブの二人がクイズを解きながら奥深い魅力を発見する番組、この企画とキャスティングは絶妙で面白かった。
- ・こてつの二人も、はしゃぎ過ぎずに持ち味を生かした案内で、おかずクラブとの調和が上手に取れていた印象だった。
- ・主役であるおかずクラブの二人が、ただ椅子に座ってクイズに答えているのは何と

ももったいないなと感じた。このような番組構成であれば、わざわざ「こてつ」ではなくアナウンサーが写経やグルメレポートをするほうが個人的には良かったと思う。

- ・お笑い芸人の登用・クイズ形式は子供たちも親しみを持ち理解しやすい内容だった。一方、著名人とか信州出身者といった特徴あるキャストを登用した方が良い。
- ・松代城の雪景色はタイミングが良かった。一方、御開帳の季節に合わせ桜景色も見せて気が利いていた。回向柱のお浄め式を採り上げることで御開帳の一連の流れや歴史を理解できた。
- ・善光寺と御開帳、そして長野市にも関心を深めてもらえるよう、面白く工夫された出題だった。
- ・最初の問題に大河ドラマの主人公級の源頼朝を登場させたのをはじめ、松代藩初代藩主の真田信之を取り上げた際も、大河ドラマのテーマ曲に乗せて弟の信繁（幸村）を上手に絡ませるなど、善光寺や長野市のことをあまり知らないであろう県外の皆さんにも、興味を持ってもらえるような工夫が読み取れた。
- ・火災で焼失した本堂再建の為に御開帳が行われたこと等、新たに知る内容もあり、参考になった。
- ・江戸時代に江戸や大阪、九州、四国などを巡った御開帳による寄進が2万5千両、約130億円にも上ったという話など、新鮮な情報だった。
- ・2013年に東京両国の回向院で東日本大震災の復興支援として開催された戦後初の御開帳の映像も紹介されていれば、御開帳の価値がもっと出たのではないかと思う。
- ・ナレーションとクイズをうまく織り交ぜながら、基礎知識からコネタや通好みの歴史知識まで取り上げ、さらには近接の県立美術館、善光寺に縁の深い松代、グルメ、味噌蔵など、周辺地域情報も上手にちりばめることにより、幅広い層に飽きさせずにリラックスして最後まで視聴させることができたのではないか。

- ・御開帳でのコロナ対策をしっかりと紹介していたのは適切だった。
- ・フジテレビ系列の全国各局で放送してもらえたらと期待している。そうした状況にも応えられる中身に仕上がっていると自信を持っていい番組。
- ・長野への来訪者は鉄道利用も多いので、善光寺から松代への足としてわずかでもバス路線に一言触れておけば、より親切かと思った。
- ・善光寺や御開帳について、もっと丁寧に説明して欲しかった点や、掘り下げた説明不足を感じた。
- ・善光寺の朝のお務めである「お朝事」までの一連の映像も印象に残った。特に太鼓の音とともに内陣の扉が開く場面はお膝元に暮らす私も見たことがなく、その荘厳さに引き込まれた。
- ・お朝事について、日の出の時間に合わせて開き、その1時間後にお朝事が行われることから毎日時間が変わる説明や、今はコロナ禍で実施していないが、平常時であれば「お数珠頂戴」で参道に跪いて頭に数珠を触れてもらうこと等も有名で紹介して欲しかった。
- ・県立美術館もすぐ近くにあることの説明とクイズの会場の位置づけ(特別展のテロップはあったが)、常時展示の概要等が必要だったのではと感じた。
- ・真田信之は93歳まで生き、上田～真田～松代の基礎を築いた偉大な人物。そういった趣旨の紹介がある一方、肖像画の表情がお笑いの題材となったり、「病気がち」など負の側面紹介が全体感とすればミスリードであった。「犬伏の別れ」以来、真田家を守るために苦難な人生を歩んだ英雄として表現すれば必要十分であった。
- ・お店などスポットの案内が住所や電話番号等だけで善光寺や松代城との位置関係が分からなかったり、エンディングの雪景色が県立美術館の屋上からであることの紹介が無かったりで、地図を作成するのにもお金と時間が掛かるのかもしれないが、もう少しロケーションが分かる工夫があっても良かった。
- ・グルメの話も、松代の創作料理やビールと長野市の味噌、何かまとまりのない感じ

がした。

- ・善光寺御開帳と縁の深い松代、そしてグルメ等対象の話題が多すぎて、一体感のない情報提供になってしまったのではないかと感じた。全体的に中途半端なまとまりのない印象が残った。
- ・「善光寺住職の奥村橙香さん」と紹介していたが、奥村さんは、“甚妙院の住職”であって、善光寺の住職は大勸進の瀧口住職なので、紹介の仕方に気を付けた方がいいと思う。大勸進の方ばかり紹介していたが、大本願の方も紹介した方がいいと感じた。
- ・荻原市長ナイスキャスティング。NBS 番審委員OBとして語りも表情も非常に良かった。番組が盛り上がった。
- ・最後に、荻原健司氏の登場で、番組がピリッと締まり大変良かった。改めて、市長は最高のセールスマンだと実感した。
- ・CM前の荻原市長の登場が顔は隠されていたが、名札の名前が見えてしまった。登場の時のおかずクラブの皆さんの反応が見たかった。
- ・題材は興味深いものだったので、出演者のロケをもっと工夫してもらえれば良かった。おかずクラブと地元の人々との交流の場面が少なかったのが残念だった。
- ・クイズはきわめてあっさりした内容で、深掘りに欠け、印象に残らない。お笑いタレントを見せるにしても物足りない。
- ・この番組の視聴対象者は、どのような人を想定しているのだろうか。放送が県内だとすると、あまりに一般的な内容過ぎる。もう少しなるほどといわせる工夫が欲しい。
- ・期間中の御開帳に関わる諸祭事、他地域の各種祭りやイベント、松代藩に限らず他藩や他県と善光寺との関わり、県内・全国の善光寺信仰、善光寺に関する歴史文化の深掘り等々、引き続き6月までに御開帳をテーマに様々な特集を組んで頂きたい。

- ・びんずる祭りやえびす講煙火大会など7月以降の祭事やイベントを盛り上げ、長野の街の活性化を持続させるため、御開帳によって再生したウイズコロナでの門前や周辺地域の賑わい及びコロナ対策の実際を伝え続けて欲しい。

(2) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和4年3月分の視聴者対応について編成部より報告を行った。

(3) 番組種別報告

資料に基づき、令和3年10月～令和4年3月までの番組種別について編成部より報告を行った。

(4) その他

配布資料

- ・視聴者対応報告資料（令和4年3月分）
- ・番組種別報告（令和3年10月～令和4年3月分）
- ・第527回番組審議会（3月）議事録
- ・民間放送（第2200号、2201号）
- ・BPO報告（NO.236、237）
- ・モニターレポート
- ・タイムテーブル
- ・放送倫理手帳2022

以上